

災害への備えを考えよう！小貝川の決壊当時を振り返るパネル展
「市民防災フェア2020～水害から身を守ろう！～」を開催(8/17～31)



▲展示する写真の一部(左：小貝川決壊時の様子(小貝川下流左岸)、右：龍ヶ崎市水門付近(河内竜ヶ崎線))

防災・減災日本一を目指す龍ヶ崎市では、昭和56年に小貝川が決壊した日である8月24日を前に、龍ヶ崎市における小貝川の決壊当時の写真や映像などで振り返るパネル展「市民防災フェア2020～水害から身を守ろう！～」を令和2年8月17日(月)から8月31日(月)までの間、龍ヶ崎市役所1階ロビーで開催します(自由見学・入場無料)。

展示会は、本市で昭和56年に小貝川が決壊した日の前後に毎年開催していた、市民に対して災害への備えを啓発するための総合防災訓練や防災講演会などが、今般の新型コロナウイルス感染拡大を受けて、開催が困難であることから、開催するものです。

写真や映像のほか、災害時の避難方法や政府が作成したコロナ禍における避難のポイントなどを展示し、災害をより現実的に考える機会となっていますので、報道機関の皆様におかれましては、展示会の周知にご協力賜りますよう、お願いいたします。

【昭和56年発生の洪水】

昭和56年8月に台風による洪水が発生しました。関東地方では強い雨が22～23日までの約30時間の比較的短時間に降り、特に利根川と鬼怒川の上流山間部では総雨量300～500mmに達し、利根川では昭和47年洪水を上回る規模の出水となって警戒水位を大幅に超え、昭和34年8月洪水以来22年ぶりに利根川に警戒警報が発令されました。

この洪水により、利根川水系は随所で河岸護岸崩壊・漏水・根固め流失等の被害を受け、特に利根川の支川となる小貝川下流左岸の龍ヶ崎市では、24日午前2時頃堤防が決壊し、浸水戸数915戸、浸水面積は約1,600haに達しました。(※国土交通省ホームページ参照)

■日時	令和2年8月17日(月)～8月31日(月) ※土日・祝日は閉庁 午前8時30分から午後5時15分まで
■場所	龍ヶ崎市役所1階ロビー(所在地：龍ヶ崎市3710番地)
■主催	龍ヶ崎市
担当課	龍ヶ崎市 危機管理課 消防グループ 担当者：佐藤・鈴木・秋山(さとう・すずき・あきやま) 連絡先：0297-60-1514(直通)